

(研究部門)

体育科を通して「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図る
～「主体的・対話的で深い学び」を実現するために～

大阪 市立中道小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

令和4年度から「主体的・対話的で深い学び」を実現することで、「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図ろうと、体育科を通して研究を行ってきた。これは、令和3年度まで進めた算数科の研究の結果、「対話の充実」や「『主体的に学習に取り組む態度』の育成」が課題として挙げたからである。また、令和3年度の学力経年調査の結果において、「主体的に学習に取り組む態度」のポイントがどの教科においても低かった。そこで、学習に困難さを抱える児童にも有効で、どの児童も粘り強く学習に取り組みやすく、対話しやすいもの、また対話の中から児童の試行錯誤・協働の様子が見取りやすく、児童が達成感を味わいやすいものと考え、体育科を選んだ。

昨年度の成果や課題を踏まえ、他者との協働を通じた対話の充実を目指すとともに、児童が「自らの学習を調整しようとする力」の育成を目指して、授業展開や学習カードの研究を深めていく必要があると考えた。

2. 研究のねらい

「主体的に学習に取り組む態度」について、「粘り強い取り組み」と「自らの学習を調整しようとする」という2つの側面があると定義して、児童が友達と協力し合ったりする中で自ら学ぶ「態度」を身につけ、課題を明確にすることにより、練習する方法を選んだり、工夫したりする中で、「思考・判断」する力をつけていけるようにする。そのために、学びを深く進めるための工夫・授業改善を図る。また、児童が学習状況を振り返ることができたり、他者との協働を通じてよりよい解決策を見い出したりしていくことで、主体的・対話的で深い学びの実現につなげ、主体的に学習に取り組む態度の育成を行う。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 楽しく主体的に運動に取り組める場の工夫

- それぞれの運動領域の特徴や学習のねらいを明確にする。そこから運動のコツやポイントを具体化し、その技術を身につけさせるための練習方法や言葉かけ、発問なども含めた場を工夫する。
- 課題を解決するために、ICTを活用するなどの授業改善を図っていく。
- 事前に行った意識調査などによって、児童の実態・つまづきを把握し、単元、1時間ごとの課題を明確にして、取り組めるようにする。

視点② 自らの活動の振り返りや他者との協働を通じて、課題解決するための工夫

- 学習段階に応じた学習カードを作成し、児童が自ら学習を振り返り、新たな課題の発見や設定、自らの学びに対する評価ができるようにする。
- 他者との対話、協働を通して、課題解決に進んで学ぶ学習形態（個人・ペア・グループ・全体）

の工夫を行う。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 資料作成部会として、教員集団が実際に運動しながら、その運動の特性を考える時間を設定したことで、研究の内容が深まった。
- 主運動につながる感覚づくりの運動や体ほぐしの運動を設定したことによって、児童に「できるかもしれない」という認知をもって学習に取り組ませることができた。
- ゲーム感覚のように、レベルを設定し、クリアしていくような場をつくることで、粘り強く最後まで取り組めた。
- めあてやそれぞれの運動ができているかが明確にわかるような学習カードの作成ができた。
- 少人数のグループ構成や対話が生まれるようなグループ作りができ、活発に対話できた。
- 中学年以上では、友達の動きを見るときのポイントや役割を示すことで、効果的にアドバイスできた。

(2) 今後の課題

- 対話を多く取り入れようとすると、時間配分に苦慮することが多かった。運動量が減らない程度に対話の時間を設けていく。
- 発達段階に応じた学習カードが児童にも指導者にも負担とならないような持続可能な学習カードをさらに研究していく必要がある。
- 運動のコツを児童に明確に示すためには、運動の特性や見る目を指導者がもつことが重要であり、さらなる研鑽が必要である。
- タブレットを学習カードとして利用したが、接続の問題や内容について使いにくいという結果もあった。ICTの効果的な活用方法を今後も研究していく。